

乳癌の早期治療について

城山病院 乳腺外科 富永 智医師

乳がんは特に30代後半から40代にかけて家庭の中心となるべき年代で多くみられます。自分の身体のごことは後回しにしてしまい、発見が遅れるケースもたくさんあるとか。乳癌は早期に発見して診断し、治療を受ければ、ほぼ100%の治癒率です。先月号「乳癌の早期発見」に引き続き、富永医師に乳がんの早期治療について話を聞きました。



マンモグラフィ読影認定

オーダーメイドの治療

当院では、科学的根拠に基づき、手術・薬物療法・放射線療法において、乳がんの進行度や個性(サブタイプといわれるがんの性質や特徴)に応じた個別の治療を実践しています。薬物療法では、個性に応じて最も効果が期待でき、なるべく不要な副作用がないような薬剤を選択していきます。また日常生活を継続できるように、外来で安全かつ安心して薬物療法を受けられるようにしています。

放射線治療

放射線治療は、手術・薬物療法と並ぶがん治療の3本柱のひとつです。乳癌は放射線の感受性が高く、放射線治療が効果的です。放射線治療を行うことで、温存術後に残った乳房内の再発を3分の1ほどに減少させる効果があるといわれています。

セカンドオピニオンについて

主治医から治療方針を示された場合、自分にとって最良の方法が何か迷うこともあるかもしれません。そういう場合は、セカンドオピニオンを求めるともひとつの方法です。ご自身の病気と前向きに付き合っていくために必要であるならば、お手伝いいたします。

最後に

女性は、家庭の中で大きな責任を担っており、また結婚・出産・子育て・介護など生活スタイルの変化や月経・閉経といった体の変化に常にさらされています。

手術

乳癌の手術には、乳房温存術と乳房全摘術があります。どちらを選択するかは、病気の大きさや広がり、転移などを画像検査でしっかりと評価し、その上で患者さんの意向をふまえて決定していきます。

また乳房全摘術が必要な方にも、乳房再建の希望のある方には形成外科医と乳腺外科医で乳房再建チームを組織し、可能なかぎり対応し、患者さんの術後の精神的・肉体的

私の外来を訪れる方の中には、1年前から乳房の変化に気がついてはいたけれど、両親の介護に忙しく病院に来られなかったとおっしゃる患者さんや、家族を心配させまいと、特に同じ女性である娘に言い出せず、露出した乳癌を隠しながらお仕事をされていた方もいらっしゃいます。女性のの中には日々の仕事の中で自分の体を不調を後回しにされてしまう方がおおいにいらっしゃると思います。乳癌は、早期に発見して診断し、治療を受ければ、ほぼ100%の治癒率です。日々の忙しい生活のなか、少しご自身をいたわる時間を作って、自己検診を試してみてください。「なにか違う」と感じただけでも構いません。素朴な疑問や不安を抱え込まず、同じ女性だからこそお話しただけのこともあると思います。ぜひ気軽に乳腺外来へいらしてください。

乳腺外来は毎日あり、月曜と水曜は私が、木曜は佐藤七夕子医師が担当しています。同じ女性として心と体の両面で支え、じっくりと治療に取り組める環境を提供できるよう努力していきます。